

第七次福井市総合計画審議会 審議会（第2回）

■日 時：平成27年10月26日（月）10:00～12:00

■場 所：地域交流プラザ 研修室 607（アオッサ6F）

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

事務局

それではご案内いたしましたお時間となりましたので、ただいまから第2回福井市総合計画審議会を開催いたします。皆さま方におかれましては、大変お忙しいところ本日審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日宮崎委員、見谷委員より欠席のご連絡を頂いています。また、加藤委員につきましては、若干遅れるというご連絡を頂きましたのでご報告申し上げます。

それでは最初に、総合政策室長より一言ごあいさつ申し上げます。

事務局（山田総合政策室長）

皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところ、第七次福井市総合計画審議会の審議会にご出席をいただきまして、本当にありがとうございます。これまで専門部会を2回開催させていただいたところですが、そこでも熱心なご議論をいただきまして本当にありがとうございました。各専門部会でいろいろご議論いただいたところ、概ね部会の中では一定の方向性ができつつあるのかなと思っています。このあたりに関しては、これから各専門部会の部会長からその部会の審議状況をご報告していただくことになっています。

本日は、この総合計画をどういうふうに取りまとめるのがいいだろうかというところも、少しご議論をいただきたいと思っています。課題ペーパーも用意させていただきましたので、まとめ方、七次の特徴を出すのにはどうしたらいいのかというようなところをご議論いただきたいと思います。

福井市では今、ご存じのように人口減少問題に対する戦略ということで、人口の長期的展望をどう持つかということの人口ビジョン、あるいはそれをどう進めるかという総合戦略をまとめつつあります。あともう1つ、行政の組織強化という意味もありまして、今度の七次総合計画の期間内には、中核市に移行したいということも考えているところでございます。

いずれにしても、そうした今後福井市の政策を進めていく上で基本となるのがこの総合計画でございます。これからまだまだいろいろな取りまとめにご協力いただかないとできないと思っていますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。本日はどうかよろしくお願いいたします。

事務局

それでは早速議事の方に入らせていただきます。進行につきましては、眞弓会長、よろしくお願いいたします。

2. 議事

（1）専門部会の審議内容報告について

【資料】資料1・資料2・資料3

眞弓会長

おはようございます。眞弓でございます。早速議事に移らせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。会議次第の2の（1）専門部会の審議内容報告についてでございます。まず各部会長からご報告いただきたいと思います。部会ごとにご意見やご質問を受けたいと考えています。それでは第1部会の下川部会長からお願いします。

下川第1部会長

おはようございます。第1部会の部会長をさせていただいている下川と申します。これまで2度の部会を重ねてきまして、また会長、部会長、副部会長で集まった調整会議も経まして、ようやくここまでたどり着いている状況であります。

これまでの内容を今日はお示したいと思っているのですが、そもそも第1部会で今一番重要視しているのが、安全で安心して暮らせる社会基盤をこれからどうつくっていくかということと、もう1つは、人口が少なくなっていくときでも耐えられるまちをどのようにつくっていけばいいのかということです。しかも第六次総合計画を基本的には引き継ぎながら第七次総合計画を考えていくという考えの下、第1部会ではその社会インフラというものをどう捉えていくかということを議論してまいりました。

お手元の資料の資料1をご覧ください。第1部会の審議概要のところでは3点挙げさせていただいています。ここを読み上げますと、「現在の第六次総合計画では、中心市街地の活性化が政策の中心となっていた。今後5年間は中心市街地だけではなく地域のまちづくりの方向性を示す必要がある」というものです。これはどういうことかといいますと、第六次総合計画では政策として中心市街地を大きく取り上げていました。

しかし、今後人口が少なくなっていく上で、中山間地域といいますか、郊外の中心市街地以外のところにも目を向けていかないと、皆さんが、市民が安全で安心して暮らせるようなまちはどうしてもつくれないんじゃないかということで、中心市街地だけではなく中山間地域、その周辺部にもちゃんと目を向けていきたいと思います。ということを議論してまいりました。

次に、そうしたことを考えていく上で、インフラにはいろいろあるんですが、今社会インフラに目を向けたときに、特に交通の利便性や空き家、地域資源というものをいかに活用していけばいいのか、また足りないところを補っていけばいいのか、このようなことを考えまして3つのキーワードを抽出して、特に先ほどお話しした周辺部の中山間地域のまちづくりについて、検討を深めてまいりました。

次に、政策1について議論を深めたとなっているんですが、これはどういうことかといいますと、政策1というのは第六次総合計画では中心市街地に対する政策だったんですが、中心市

街地に対する政策だけではやはりだめだということで、その中に中山間地域というものをいかに抽出していくかという議論を深めたということです。

政策2から4の分野というのは、道路や河川、上下水、ガスなどの社会基盤といわれているものなのですが、これらはやはりまちを安全に運営していくためには欠かせない分野でありますので、これはそのまま第六次総合計画を引き継ぎながらいきましょう。ですから、第1部会では特に政策1のこれまでの中心市街地に関する議論を、周辺部と二分化して取り上げています。

皆様にご覧いただきたいのが資料3です。資料3をご覧くださいますと、第六次総合計画では政策が5つあったものを3つにしています。①、②、③とあるんですが、①は「まちなかの充実した都市機能により、多様な人が集まるまちをつくる」ということで、その枝葉として施策を組み上げています。これは特に中心市街地に関する議論です。これは第六次総合計画を引き継いでいるものもありますし、さらに現在のメンバーで考えを加えているものもございます。

②が特に大きく変更したところなんですが、「地域とまちなかが共存共栄により自立的に発展できるまちをつくる」という、これまでになかった部分を加えさせていただいています。この中身を少しご覧いただきたいんですが、まず「快適な市民の憩いの場をつくる」という項目を加えさせていただいています。中山間地域というところは高齢化が進んでいまして、そこでお住まいの方々のコミュニティーがだいぶ衰えてきているところもあります。そういったことをしっかり念頭に置いて、憩いの場をつくることによって市民のコミュニティーの持続性を担保していけたらいいんじゃないのかと、そのような考えでこの項目を入れています。

「公共交通の利便性向上と市民ニーズに合致した交通システムを構築する」というところですが、皆様もお感じになられていることだと思うんですけども、極端なことを言えば、例えば美山や越廼をイメージすると、中心部との交通ネットワークは大変脆弱で、ここら辺をしっかりとつくり上げていってあげないと、これからそういったところに住み続けることが難しくなってくるんじゃないかということで、このような項目を入れさせていただいています。

「安定的で持続可能な生活圏を構築し暮らしの充実をはかる」ということなんですが、これは少し専門的で難しい話になるんですけども、地域でこれから暮らし続けていくためには、そこに地域拠点というものをやはりしっかりとつくっていかないといけないんじゃないのかと。都市のダウンサイジング、コンパクトシティとかいう言葉をたまに耳にするんですが、中心部と周辺部をいかにつないでいくかというのが、これから大きな課題になってくると考えています。そうしたときに中心部にはちゃんと拠点はあるんだけどその周辺部に拠点がないと、例えばそこに医療や福祉を集中的に集めていくわけなんですけど、そういったことをやらないとやはり周辺部で持続的に生活をしていただくことはできないんじゃないのかなと、そのような考えでこの項目を入れさせていただいています。

「地域の特色と資源を活かした個性あるまちをつくる」ということですが、これから人口が減少していく中で、地域力を育んでいただくためには地域に魅力がないと、移住者やそこで住み続けるということが難しくなってくるだろうと考えています。そうしたことで、資源を生かして地域の特色を出していくということを、しっかりとこの総合計画で担保してあげるべきではないのかなと、そのように皆さんで議論をしてこのような項目を入れさせていただいています。

③は、皆さんお手元に第六次総合計画はないと思うんですが、第六次総合計画の政策にあった2番から4番まで、それをひとくくりにして、これまで中身が重複しているものも非常に多かったのもので、そこを整理してその③を入れさせてもらいました。

そのように、第1部会では第六次総合計画を基本的に引き継ぎながら、そこに周辺地域というものも新たに加えさせていただいて、持続的に運営していけるようなインフラを考えさせていただいているところであります。第1部会では2回まで部会が終わりまして、最後3回目の部会が行われるわけなんですけど、そこでさらに議論をしていきたいなと思っています。

ちょっと付け加えですが、前回調整会議というものがあまして、各部会の部会長さん、副部会長さんで集まって、それぞれ部会間で調整できる場所はないのかという議論をさせていただきました。その中で、地域防災というのをどう考えるんだというお話がありました。地域防災となれば第2部会「みんなでつくる住みよいまち」の中で、「災害・事故に強い安全・安心なまちをつくる」という項目がありましたので、そこで担保できるのではないのかなと思っていたんですが、やはり第1部会でも社会インフラの持続性という意味で、しっかりと災害に強いまちをつくるという項目を入れていかなきゃいけないんじゃないかと考えていました。そこで資料2-1をご覧くださいたいんですが。

すみません、いっぱいあって飛び飛びになってしまっていて申し訳ないんですが、【社会基盤】の中で「9 次世代につなぐ強靱な社会基盤を整備する」という項目を作らせていただきました。その中に赤字で「国土強靱化地域計画を推進する」と書かれてあります。これの詳細については今時間がないので割愛させていただきたいんですが、このような項目を入れさせていただいて、第2部会がソフト、第1部会がハードという面で強靱な地域づくりをここで担保できたらいいなと、そのように考えています。

この部分は第1部会の方々は初めて目にするものだと思いますので、また3回目の部会で皆さんにお話をさせていただいて、ご承認を頂ければありがたいなと思っています。第1部会からは以上です。

眞弓会長

ありがとうございます。それではただいまご報告いただきました第1部会の審議内容につきまして、ご意見あるいはご質問をお受けしたいと思います。ご発言されるときは挙手をお願いします。お名前を言ってからお願いいたします。

斎藤委員

福井県子どもNPOセンターの斎藤といいます、よろしくお願いします。大変いろいろなお話を聞かせていただいて、とてもよく練られていると思うんですが、ものすごく基本的なところをちょっとお尋ねしたいんですが、中心市街地とか周辺地域というもののその定義といいますか、中心市街地というのがだいたいどのあたりで、周辺地域というのは何を指しているかというのが私はよくわからなくて。中心市街地に対して周辺地域というのが、福井市の例えば中心以外の居住区なのか、山間部とかいうことをさっきおっしゃったので、山間部にフォーカスするという意味なのか。

あと、私が福井に来てからたぶんもう20年ぐらいずっと中心市街地の活性化ということをしていわれているんですが、年々衰退している感じがして。昔は、例えば西武が大きくてその

周りの商店が困っているという話はあったんですけど、今はもう人けさえもあまりないというのか。駅前なんかは、交通インフラでいうと福井県で一番便利だと思うんですね、いろいろバスのターミナルになっていますから。それだけ便利な場所でも、人が行かなくなっているというのが現実だと思うんです。交通インフラを整えればすべてうまくいくのか。

市役所なんかも、いろいろな機能を各支所とかで取れるようになって、市役所まで赴かなくてもいいというのがありまして、機能としてどういうところを残してどういうところに力を入れていけば活性化するのか。それから、中心部でもなく山間部でもない地域に住んでいる方がすごく多いと思うんですね。特に若い世代の方なんかは、中心部でもなく山間部でもないというところにたくさんの方が住んでいらっしゃると思うんですが、その人たちが今の中でどういうところに魅力を持って地元に戻りたくなるという気持ちになるのかなというのが、ちょっとわかりにくかったかと思いますので、またお願いいたします。

下川第1部会長

ご質問ありがとうございます。中心市街地の定義といいますと、もうシンプルに福井市さんが設定している105ヘクタールが中心市街地、そのような捉え方をしているんですが。ただ、居住区というのが100ヘクタールほどさらに広がっているんで、住宅街エリアというのがありまして、だいたい漠然とそこら辺をイメージしています。ただ、その中心市街地以外の中山間地域という言い方がちょっと限定しすぎたと思うんですが、中心市街地以外をその周辺とまず捉えていただくといいのかなと思います。

確かに中山間地域というのは大変不便なところで、そういうところに地域の魅力があるので、そこを放っておくわけにはいかなくて、今一番大きな問題はそこら辺にあるんだろうなと考えてはいるんですが。周辺部というのは、もう中心市街地のその他とお考えいただければいいのかなと思います。

まちの魅力が低下して、まずまちの構造も変化して、中心市街地の求心力がなくなってるんぬんというのは、もうだいたいわかって久しいわけなんですけど、第1部会で基本的に考えていったというか基本的なスタンスとした部分というのは、最低限という考え方かなと。第1部会で皆さんがお話ししていた話を整理しますと、ぜいたくなというわけではなく、最低限これは絶対必要なんだという考え方が中心だったかと思います。

ですから、交通インフラを整えてそれで中心市街地が活性化するかどうかというのは、またちょっと別の議論になってきて。それがないと本当に生活し続けられないという、最低限のインフラを整えていくという考え方です。ですから上下水道やそういった話も最低限持続していく、骨組みをしっかりとつくっていくと。そのために必要なことというのは何だろうかということを考えて、ここに盛り込ませていただいています。

そういう意味では、この第1部会で議論したことを行って中心市街地が活性化するかどうかというのは、またこれをベースにした次の議論になってくるのかなと思います。ご承知のように総合計画というのは最上位の計画でありまして、ここから各課、室が事業をつくられていくわけなんですけど、できるだけ懐の大きいものを用意して、活性化に向けた議論がしやすいような状況をつくり出しておくとか、そういうことの必要性も感じてこのようにさせていただいているところです。すみません、お答えなっているかどうかちょっと不安なんですけど、基本的にはそういうスタンスで考えさせていただいたということです。

堀川委員

福井市議会の堀川と申します。先ほどおっしゃられた福井市の中心市街地が衰退の一途をたどっているというようなご感想ですが、実は大変な状況であったところからかなり良好な状態になっていると思います。直近でいつごろ駅前においでいただきましたか。

というのは、ここ1カ月、2カ月の間でもものすごい勢いで出店者が増えています。出店者が増えていたのは今までもそうなんです。それは福井市の方から家賃補助や改装費、利子の補助など、そういった本当に手厚いかたちで、中心市街地でお店を出される方、開業される方、事務所を開設される方に対して補助を出していましたが、今まではその補助金が終わると、1年ないし2年でそれが打ち切られると、その時点でもう夢がかなったと、やるだけやったと、私は頑張ったといって撤退する方がたくさんおられたんです。

しかしここに来て、私は駅前でお店をしたい、駅前ですとどうしても頑張りたいんだという方々がずいぶん増えてまいりました。最近ですと大きなイベントとして美のまちふくいとか、それから11月1日までなんですけれども、福井駅前の中心市街地にあります新栄テラスとって、新栄商店街の中にある駐車場を屋外広場として利用するという取組みに、たくさんの方がお見えになられた・・・

斎藤委員

実は先週の日曜日にそこで私たちがイベントをしました。新栄テラスと西武の横のアップロードを全部貸し切って、子どものフリーマーケットとかいろいろなライブパフォーマンスというのをやって、子どもでお店を出した子が200人ぐらいいたんです。とてもにぎわっているように一見見えたんですが、一筋入るともう本当にシャッター商店街なんですね。そのイベントをやっている場所だけ人がいて、やっていないところはもう何もしてないみたいな。だったのでちょっと私は危機感を持ったんですが、今、私がお聞きしたかったのはそれが主題ではないので、とても上向いているということなら非常に素晴らしいと思います。

お聞きしたかったのは、そういう中心市街地とか周辺部というのが、さっき山間部にちょっと言及されていたので、その話でこの「人が輝く 帰りたくなるまち」というところが、そういうちょっと過疎化したところのインフラの整備とか、居住空間の保障というのはものすごく大切だと思うんですが、それと現在生活して産業に寄与しているような人たちとか若い人が、帰りたくなるのかそういうものとは、少しずれがあるかなと思ひまして。2つのものを追いつけているというか、そういう印象を持ちましたので、ちょっとお尋ねいたしました。失礼いたします。

眞弓会長

ありがとうございます。いろいろご議論をいただかなきゃいけないことが多いんですが、時間もございます。他に何かご意見があれば。斎藤委員のおっしゃったことは非常に重要なことだと思うんですけど、それを第1部会の委員の方に押し付けるのもなかなかしづらいところもあるように思いますし、これは市の、行政の方がしっかり考えていただく部分も非常に多いのかなとお伺いをしました。

野坂委員

第3部会の野坂と申します。ご議論は大変素晴らしいものがあるなと感心したんですが。1

つは、やはり人口が減っていく中で税収の見通しその他を考えていくときに、すべてをやっていくというのは簡単ではないと思っています。そういう面ではコンパクトシティとかそういうことで、できるだけ社会インフラのコストを低く抑えるという政策が1つの流れであったことは間違いないと思います。

そういう見通しの中でそこが維持できるのかどうか、それから交通インフラについても、これもなかなか簡単に維持できるような問題ではないと思います。すべてをやっていく上で。そこら辺の議論、税収の見通しとか財政的な見通しの中でどこまでできるとか、そういう議論がなされたのかどうかというのをお聞きしたいと思います。

下川第1部会長

ありがとうございます。第1部会のメンバー間で、経済的なところは議論をそれほどしていません。むしろ、こういう方向に都市を構造的に変換していかない限りやはり持続性は無理だろうという、大きな風呂敷を用意させていただいたところになります。その中で福井市さんがリアルな問題としてそれをどう落とし込んでいくのかというのは期待したいところなんです。できるだけ小さくならないように、第七次総合計画は5年間しかないんですが、その後第八次があるかどうかわかりませんが、次にしっかりとバトンタッチできるぐらいの大きな風呂敷をつくっていったらいいなと。

おそらくこれを5年で何かをするということは無理だろう、それで10年、15年と、もしかかっていくのであれば、今からしっかりと腰を据えてやっていかなきゃいけないという、その第1部会の思いも込めまして、少し大きくさせていただいているところであります。

眞弓会長

野坂委員がおっしゃったことも極めて当然といえますが、非常に重要な議論だと思うんですけど、この審議会の意味付けも含めて、あるいはその市の役割とどういうふうに分担するのかというようなこともいろいろあると思うんですね。

市長さんをはじめとする行政側、あるいは市議会の議員の皆さんのお考え、それとこの審議会の役割、それぞれがいろいろ分担していかざるを得ない部分もあるかとは思います。

野坂委員

理念的な方向性というのは必要だと思います。ここの計画では理念的なことを述べればよいと思うんですけど、実際にやる上では、市、行政当局の方は限られた予算の中の戦略的な使い方というのをきちっとしていかないと、網羅的にやったのでは薄まってしまって意味がないように思うというところで、そういうことが必要でないかとは思っていますので、よろしくお願いいたします。

眞弓会長

おっしゃるとおりだと思います。ありがとうございます。

時間が押していますので、第2部会に移らせていただいてよろしいでしょうか。それでは第2部会の田村部会長、お願いいたします。

田村第2部会長

第2部会の方に入らせていただきます。資料1をご覧ください。審議の概要といたしまして、

政策、施策を順に見ながら、現在取り組んでいる事業を参考に足りない視点がないかを検討いたしました。六次総合と基本はあまり変わらずに細かいことを進めていきたいというのが専門部会の議論でございました。

政策、施策の反映の方向性といたしまして、基本的な政策、施策は変えず、以下のような視点を新たに取り入れるということです。総合ボランティアセンターをボランティアの拠点とする。来年春にできます総合ボランティアセンターを活用していこうということでございます。そして人口減少にも伴いまして子育て世代への総合的な支援の充実や、問題化されています老朽危険空き家等への適正な管理をどのようにするか。また、リーダー的立場の女性を育成するには、女性活躍推進法というものもできましたが、それに伴ってどのようにしていくかということを中心に話をいたしました。それから、下に書いてございますのは、他の部会の意見がありましたので調整会議において調整をいたしました。

資料をご覧ください。資料2-2と3を照らし合わせてご覧いただきたいと思います。資料2-2に赤字で書いてございます「4 市民が自らの役割と責任を担い、誰もが尊重される住みよいまちをつくる」は、資料3の赤で囲んであるところです。行政任せ、人任せじゃなくて市民自らがどのように動いていこうか、これからは市民自らが動く必要があるのではないかとということでございます。

そして、施策の中に12、13、14、15、16とございまして、赤字で書いてございます12の施策の中で、どのようなことを具体的にしていこうかということで、施策の主な内容を掲げていただきました。その中で、総合ボランティアセンターを活用していこうということを新たに取り上げました。15の中では、男女共同参画を推進するとともにというところの文言を変えてございます。「女性の活躍を応援する団体や企業の活動を支援し、リーダー的立場の女性を育成する」というのを新たに取り入れました。

「5 環境にやさしい持続可能なまちをつくる」、これはそのまま入れてございます。18ですが、3R（ごみの発生抑制、再使用、再生利用）の推進にモデル地区を設置してはどうかという話が出まして、このように入れてもらいました。

「6 すべての市民が健康で生きがいをもち安心して暮らせるまちをつくる」、これに関しましては、「21 生涯にわたる健康づくりを支援する」ということです。認知症がこれから多くなるのではないかと、それに関しまして認知症の早期発見ということを重点にこれからしていかなければいけないのではないかとということで入れました。そして、「妊娠期から子育て期にわたる様々なニーズに応えられるよう、関係機関との連携を強化し、子育て世代への総合的な支援の充実を図る」です。個々に考えるのではなくて、連携が必要になってくるのではないかとということで、21にその施策の主な内容として入れました。

それから「24 高齢者が生きがいを持ち安心して暮らせる環境をつくる」、この「生きがいを持ち」ということを新たに入れていただきましたのは、今までこれを入れなかったのは生きがいなかったのかということに話がありましたので、いや、これからますます高齢者が増えるということで、高齢者も自分自らが何かの役に立つという、自らが進んでできるということで、その意味で「生きがいを持ち」という言葉が入りました。

「7 災害・事故に強い安全・安心なまちをつくる」ということで、第1部会でも同じようなことが出されました。地域の防災力を高めるということで、インフラは第1部会で、第2部

会はソフトの方で研修等による人材育成をしていこう、これからは市民一人ひとり自分の手で、自分ができることを、自分で考えてするという意味でここに入りました。そして自主防災組織の育成・支援、地区防災計画策定がなされていますが、いかにそれが活用されているかということで、ここに新たに入れました。それから「27 地域における防犯力を向上する」には、先ほど出た老朽化した空き家等がこれからも増えるのではないかということで、ここで老朽化した危険空き家等の適正な管理をこれからどのように進めていくかという施策の内容を入れました。

私たち第2部会は「みんなでつくる住みよいまち」ということで、インフラは第1部会で、私たち第2部会はソフト面で、自らが進んで自分たちのまちを住みよいまちにしようという、あまりボランティア、ボランティアというのはいれませんが、自分たちで何ができるかを考えていくというこのことをございまして、個人個人がいかに生きがいを持って生活していけるかということで、このような施策の主な内容に変えていただきました。

いろいろな話が出ましたが、このようにまとめてもらいましたので、資料2-2と3とをご覧ください。以上でございます。

眞弓会長

ありがとうございます。今のこの部分につきまして何かご質問、ご意見があればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

私も第2部会なんですけれども、自治体、市町にどんどんお金がなくなってくるといいますか、財政的に非常に厳しい状況になってくる中で、いい環境を保とうと思えばやはり当然ここには住民の参加がなければやっていけないというのは当たり前のことなんです。ただ一方で、福井市といえども中山間部ではそういうかたちの助け合いとかがまだ生きています。私の住んでいる丸山地区も、結構パトロールなんかがいっぱいあるんですけど。自治会のそういう仕事。ただ、中心市街地となってくればそういうのがどんどんこれからさらに厳しくなっていくのかなとも、一方では思います。これをどうやって維持していくのかなと。

みんなでまちづくりに協力してやりましょうねと言うのはたやすいんですけど、実際にじゃあ、どうやりますかということになると、なかなかまたこれは難しい問題があるのかなと思いますが。

こういうかたちでよろしいでしょうか。ありがとうございます。また後ほど全体に議論していただく時間も持ちたいと思いますので、もしあればまたお願いします。では続きまして第3部会の南保部会長、ご報告をお願いします。

南保第3部会長

では第3部会、「みんなが生き生きと働くまち」というところの議論に入りたいと思います。第3部会ですが、まず資料の1、右の方をご覧くださいと思います。その上に第3部会の審議の概要というのが書いてございますが、産業に関わるということというのは、地方創生と絡んでそれをいかに活性化していくかという上では、産業の活性化というのは経済性の基盤を支えるということで、大変重要なテーマであるということで臨ませていただきました。

そこでは第1回、第2回と部会が開かれたわけなんですけど、1回目の部会では各委員のご意見を自由闊達に話していただき、聞かせていただきまして、どういう視点でこの審議を進める

べきかということを考えさせていただきました。その上で、まずは産業というものに対する福井市の強み弱みは何かということで、SWOT分析を柱に多様な分析を行いながら、その下に書いてあります政策、施策への反映の方向性というものを見つけていきました。

そこで出されたキーワードといたしましては、1つ目はメリハリ、2つ目にリアリティー、3つ目により具体的に、4つ目は高付加価値化、そしてそのための産業創造・育成というところがキーワードになっていったのではないかと思います。

その中で、反映の方向性を復唱しますが、まず1つ目に「政策の構成を見直し、1次、2次、3次産業の順に再整理する」。実は前の第六次計画の方では第1番目に商工業に関するもの、第2番目に観光に関するもの、第3番目に農林水産業に関するものという序列で書かれていたのですが、これを1次、2次、3次という順位付けを行いました。中でも、特に今重要と思われる農業と観光、そして商工業という3つの切り口でもって再構成を図ったというのが1つあります。

それから2つ目に、商工業の振興に関しては施策に対してもう少し具現性を出そう、あるいは新事業の創出等に関する施策も追加しようということも大きなテーマとなりました。そんなことが方向性として挙げられました。

資料2-3をご覧ください。結果的にどういうふうな政策、施策の展開になったかということがここで述べられています。まず政策の8として農林水産業に関することです。今農業の六次化ということが盛んにいわれていて、少し農業の産業化という視点も大事ではなかろうかということで、こういうような文言にさせていただいています。特に施策の中では「29 稲作の強化と園芸の推進により、農業経営の複合化を図る」ということで、まさにずばり六次産業化を図っていかうということを計画の中に盛り込ませていただいたということです。

それから次の商工業につきましては、「9 活力溢れる商工業が、持続的に発展するまちをつくる」という文言、そう大きくは変わってないんですが、特に雇用環境の創出、これは委員の方々からいろいろ、特に女性の雇用をどうしたらいいか、全体的な雇用環境の改善をどうするか、若者の就業をどう育てていくかなどいろいろな視点のご意見を頂きましたが、その中からこういうかたちでつくらせていただいたということです。

特に政策、施策のところでは「33 地域産業を振興し商工業の活性化を図る」ということで具体性を持たせていただきました。34は新たに設けた項目でございますが、「新事業の創出と創業を促進する」ということであります。福井県全体で見ましても非常に産業構造の硬直性、弾力性がないということがいわれている中で、それをいかにフレキシブルに変えていき、高付加価値化を図っていくかというのがこのテーマの中に隠されています。

3つ目の観光については、ずばりインバウンドという文言を外したということです。ここに赤字で書いてございますように、「魅力ある観光資源を磨き上げ、市民が福井に誇りと愛着を持っておもてなしする観光のまちづくりを推進します。また、周辺地域と連携した広域観光の推進と、体験型・交流型観光などにより、観光客の増加に取り組みます。」ということで、国内における地域内外の観光客の誘致にも思いをはかった政策となっています。施策については大きく変えていません。こんなことが大きな政策、施策の議論の中身となりましたが、また資料1にお戻りください。

資料1で第3部会の議論の中で特に、複数部会に関する意見でございますが、これについて

はやはり前述したように雇用政策において女性がいかに活躍できるか、能力を発揮できるかといった環境づくりが大変重要だという議論が集中しました。それから計画全体に関する意見といたしましては、中黒4つに書かれていることなんですが、総合計画の前段部分の文章中で、人口減少への危機感については述べておく必要があるのではなかろうか。あるいは、冒頭でも述べさせていただきましたリアリティーのある計画策定の必要性、あるいは可能な範囲で規模感がわかるような文言を入れてはどうか。最後に実行性のある実施計画が作られるような政策、施策の展開が必要ではないかというような内容でございました。簡単でございますが、第3部会の議論内容でございます。以上でございます。

眞弓会長

ありがとうございます。今の第3部会からのご報告につきまして、ご意見やご質問はございますでしょうか。

下畑委員

福井市市議会議員の下畑でございます。ちょっと気になったんですけれども、観光資源の中でインバウンドの文言を削除したと言っておられました。今これからインバウンドは絶対必要だと、もう全国を挙げてインバウンドという中で、この観光資源の磨き上げにインバウンドを削除したというのは、ちょっと私には理解できないんですが、これはどういう理由からでしょうか。

南保第3部会長

インバウンドも含んだ、国内の域内外の観光も当て込むという意味からでございます。つまり、インバウンドだけに突出したかたちの観光振興ではなく、域内、例えば嶺南嶺北間での観光交流、あるいは域外、北陸、近畿、中部そしてそれ以上の北関東、中国、四国も含む国内での観光振興を図っていくという意味から、あえてインバウンドに固執しないという意味が含まれています。

眞弓会長

よろしいですか。

下畑委員

わかりました。そういった視点もあると思います。

眞弓会長

他にいかがでしょうか。私事ですけど、先週倉敷に行っていました。びっくりしましたね、倉敷。あそこは美観地区というんですか、大原美術館があります。私の感覚ではあそこの観光客の7割ぐらいが外国人です。ものすごい外国人の方が倉敷に来ておられました。もちろんあれは広島が近くにあったりとか、いろいろな条件があろうかと思うんですが。

福井県の場合に、いわゆる外国の観光客を引き寄せるような観光地、国内の方もそうだと思いますが、福井市内にもいいスポットはいくつかございますけれども、大規模なものを引き寄せようと思うと、やはり東尋坊ですとか三国、勝山、永平寺など、そういう福井市以外の地域になりますよね。そういう県全体の観光の中で、県都であり、JRのいわゆるメーンの駅がある福井市はどうするのかというそういう視点を、これはぜひ行政の方の仕事だと思うんですが、

そういう意味でお考えいただかないと、ある意味福井市単独では観光資源を持っていないと、極端な言い方をすれば言えるのかなと思いました。

ぜひそういう視点で、福井県全体の観光の中で福井市はどういう役割をきちっと果たすかという、そういうのをお考えいただきたいなと、私個人的には思っていました。

森岡委員

福井の駅裏でゲストハウスをやっている、SAMMIE'Sの森岡と申します。オープンして2カ月たちまして、外国の方もぼちぼち来ていただいています。思っているのは、おっしゃっていたこと本当にそのまま、福井市もちろんあるんですけども、それ以外の場所に行くための公共交通機関の便が、もちろん整備もされているんですが、ちょっとアクセスしにくいなというところがあったりします。

あとは、観光ガイドブックに載っている以外の、例えば物づくりへの食い付きがものすごくいいんですね。鯖江の河和田、武生のナイフビレッジ、陶芸村などそういうところには、すごくクラフトというか、手工業とか、福井らしい、日本海北陸らしい文化が見られるというところで。うちに情報はあるんですけども、行き方が難しいということがすごく多くて、お勧めもしにくかったりもするんです。公共交通機関があったらいいなと、その拠点を結ぶような、福井市から広域でつないでいけるような仕組みが他の自治体さんとぜひやってもらいたいと、私は今本当に実感しているところです。以上です。

南保第3部会長

おっしゃるとおりだと思います。先週私も漆器の里（うるしの里）と紙の里（越前和紙の里）の方へ行ってきました。パピルス館ですかね、あのあたりには日曜日にもかかわらず人っ子一人いなかったと。まるで閑古鳥が鳴いていて、イヌが散歩していたと、非常に寂しい雰囲気味わわせていただきました。あそこができた当時はかなり観光客があったのではないかと思います。やはりその2次交通の整備というのは非常に福井県にとってはテーマであるんですが、ニワトリが先か卵が先かという議論になると、経済性の面で本当に大丈夫かよというふうなところが先に立ってしまって、なかなかその整備というのが進んでない現状があるのかなと思います。

野坂委員、何かご意見がございましたら、観光協会を代表して一言お願いできればと思いますが。

野坂委員

眞弓会長からもご指摘いただいたりいろいろ話がありましたが、第3部会として観光についてはまだちょっと議論が深まってないところがありますので、今のご指摘はぜひ部会長と相談して加えてまいりたいと思っていますので、よろしくお願いします。

眞弓会長

他によろしいでしょうか。では第4部会の島田部会長、よろしくお願いしたいと思います。

島田第4部会長

第4部会長の島田でございます。第4部会につきましてご報告をさせていただきます。資料1と併せて資料2-4をご覧くださいければと思います。第4部会はこれまで2回の部会を開き

まして議論をしてきたわけですが、まず最初の議論といいますのは「みんなが学び成長するまち」という基本目標に対しまして、政策、施策というかたちで各委員の方々にご議論いただきました。

今、教育に関連する事柄というのは非常に多様化をしているということもございますので、資料の審議の概要の最初の部分に、「政策・施策のシートを順に見ながら現在取り組んでいる事業を参考に具体的な事業レベルについても議論し、足りない視点がないか検討した」と書かせていただきました。1回目の議論ではそういったかたちで、政策というのは第六次を踏襲していこうという合意を得たわけです。その中で政策に対する施策ということにつきまして、今ほど申しました多様化していますので、施策が今後いろいろな対処、教育をしていく際に漏れがないのかというところを議論いたしまして、そういった具体的なところを考えながらその施策に挙げるべきなのかどうかということを議論いたしました。

資料1の四角で囲ってあるところをご覧ください。併せて資料2-4をご覧ください。まず政策11に関しましては、「健やかで自立心をもった感性豊かな子どもを育むまちをつくる」ということですが、これまでも学校における教育というところでは十分教育はするんだけど、その下に解説にもありますように家庭や地域のサポート、これはもう欠かせないものだということがはっきりしてきたわけです。

それ以外にも、最近のいろいろな社会状態を考えますと、いじめ等いろいろな問題、それからスマートフォンなどIT関連の問題もございますので、いろいろな専門家あるいは社会で活動している方のサポートが必要であろうということで、「企業や団体等」という言葉を新たに赤字で書かせていただいています。

それから質の高い学校教育というところにおきましては、学校の先生が写真やビデオ、いろいろなメディアを通して教室で語るというのも非常にいいとは思いますが、やはり生徒にインパクトを与えるという意味では、いろいろな体験、本物を見せていくとことが必要であろうと。地元のいろいろな側面といいますか、そういったことが心に残っていくということを考えまして、そういう体験学習というところを加えさせていただきました。

それに関する施策につきましては4つございます。その中で赤い文字で書かれています、「40子どもの生きる力を伸ばす学校教育を充実する」のところでは、先ほど申し上げましたように多様な大人との関わり、いろいろな専門家あるいは技術を持った方、そういった方々との交流あるいは体験を通して、地元の優れた技術といいますか、誇りを持って地元で働くという意識を、あるいは愛着を持ってもらえるのではないかと。

いろいろさまざまな問題がございます。それをサポートしていただく方のご意見というのも、直接先生が注意をしたりあるいは現状を説明したりというよりも、専門家の方に来ていただいて生徒に直接訴えていただく。危険なことであるとか、こういったことはだめだとかといったことを、取り巻く社会環境とともに訴えていただくということの必要があるのではないということも議論されています。

「42 子どもの健全な育成をはかる」のところでは、これは地域にさまざまな伝統行事あるいは歴史的な行事というのもございます。そういった中で生徒なり子どもたちを大人とともに巻き込みながら、いろいろな活動に参加をしていただきたいと思います。そういった参加をした経験が、最後に郷土愛を育む結果になるのではないかとということも議論されています。ということ

でこういう赤い文言で追加させていただいています。今説明していますのは施策の主な内容なんですけれども、そういったことが施策として含んでいるかを確認しながら議論をしていったということです。

政策の12に関しましては、生涯学習や生涯スポーツということですので、スポーツはするだけではない、見て楽しむということも必要ではないか、それからそのスポーツをしている人たちをいろいろなかたちで応援する、サポートをしていくということ、地元におけるいろいろなスポーツ振興においては、して楽しむだけではなくて地域全体でいろいろなものを盛り上げていく必要があるだろうということが議論されまして、そういう赤い文言を書かせていただいています。

施策のところでは、今後はいろいろな学習においても、福井の方はいろいろな興味関心をお持ちの方、あるいは特技とか優れた人材がいるわけですから、そういった方を発掘して、さまざまな活動が可能となるような拠点づくりが必要ではないかということです。公民館もありますけれども、今はそういう地域の方々が集まっているいろいろな学びがありますので、そういった地域地域の特色を公民館の学びあるいは活動で、そしてその地域の知的な資産というのは図書館で蓄積をしていただくということがいいのではないかとということで、施策の43にはそういう「多様な活動の拠点となる」の文言を追加した次第です。

施策の44 市民の生涯スポーツですが、これは先ほど多様なかたちということで、するとか、見るとか、支援をする、地域を挙げてある選手を応援するんだというような盛り上がりや、そういういろいろな連帯感、一体感を生んでいくということです。そういうことで「様々な形」という言葉がございました。

それから福井は現実を見てみますといろいろなかたちで、夕方ですと小中の体育館でさまざまなスポーツが行われているという実態がありますので、そういったところでの指導者の育成というところに力を入れていかないと、安全・安心そして技術の向上によるいろいろな、試合で勝ったり、これも地域の活性化につながる、そこに大人と子ども、家族のきずなとかそういったものも生まれていくであろうということで、指導者育成も必要だということで書かせていただいています。

あと、福井国体や全国障害者スポーツ大会がございました。それらを一時的な盛り上がりにはいけないんだと、それをいかに継続していくのかということで、これは先ほどの指導者を核といたしましてさまざまなボランティアというかたちでいろいろなスポーツの競技、あるいはさまざま大会の運営にあたるようなボランティア育成というのにも必要ではないかと考えまして追加した次第です。

政策最後の13 歴史、文化、自然ですが、ここは文化という言葉しかございませんでしたので、「自然」という言葉を追加させていただいています。施策のところにもございますけれども、「45 歴史や文化遺産を継承し発信する」という中におきましては、これは現在でも発信はしているということですが、継承しという中では一乗谷朝倉氏遺跡や、養浩館と書いてありますが正式には養浩館庭園という名称ですので、追加いただければと思います。そういったもののなどの郷土の文化財、歴史・文化に関する資料の保護、これは非常に大事ということです。

ただ、そういった文化財、歴史のいろいろな資料を集めて保護してというだけではなくて、それを発信する、そして実際の文化財は市民に開放してそれを見ていただく、使える場があれ

ばそれを実際に市民の生活の場に使っていただく、あるいは休日には家族の憩いの場として役立てていただくと、そういったことが必要ではないのかということで、「活用」を追加して書かせていただいています。

発信するという意味では、そういったものが専門家からの発信だけではなくて、発信が大人に届いてそして自分の親あるいは親戚からその子どもへ言い伝えられる、そういったことで子どもの教育がいろいろな取り巻く人々の中から伝わるといいますか発信されることで、いろいろな多面的に捉えることができるのではないかと。学校の教育ということ、学校だけで勉強しているんじゃないんだと、そういう地域のさまざまな文化遺産というのはいろいろな自分の身近な人からの意見とかそういったものも大事であろうということです。

施策最後の46のところ、「自然科学」を追加しています。これにつきましては、これまでも文化芸術活動やいろいろな活動の担い手育成などそういったことでは十分ここに書かれていたわけですが、片や自然科学という点では、自然史博物館とかで星を見る会とか、あるいは夏休みには植物のいろいろな名前とか、そういったさまざまな活動をしています。

また、今度駅前にドームシアターができます。こういったことを機に、体験型のさまざまな自然科学の側面というのも強調していくべきではないかと。ドームシアターというのは一部ではプラネタリウムというかたちで捉えられがちですが、プラネタリウムという一面的なものではなくて、ドームシアターというのは最新の高品位のマルチメディアスクリーンというかたちで情報発信ができるということです。そういった利用もこれからいろいろ必要に応じて企画をして、そして活用をしていくべきではないかと。福井にもこういった自然科学の教育を発信していく、強調していく側面も必要ではないかということで「ドームシアター」を記述させていただきました。

あと、資料1の方に戻りまして、複数部会に関する意見ということで、今後人口減少、少子化ということが問題になっています。学校地域、校区の生徒数もいろいろ減っていくところもあれば増えていくところもありますので、施設を順番に新しくしていくというのも、これは老朽化に対しては素早く対応していく必要もございしますが、将来的にはそういったことも考えていろいろな最適化、あるいは最新のものという試みをしていく必要があるのではないかとということで書かせていただきました。

計画全体に関する意見としましては、今ほど説明した施策の具体的な内容ということで、できるだけ福井らしさというのが出せるように継続をしていくんだということです。施策のところではいま一度六次を継続していく中で福井らしさというところをぜひとも取り上げて強調していただきたいと、そういうことで2回のご議論をいただいています。

調整部会ではそれぞれの部会長からいろいろなご意見を頂きました。福祉や高齢化していく中で、公民館の役割はこれから必要ではないかなというご意見も頂きました。地域の拠点という中で公民館がございしますので、その在り方についてはまた今後議論を進めていきたいと思っています。以上でございます。

眞弓会長

ありがとうございます。ただいま第4部会からご報告を頂きましたけれども、何かご意見、ご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

野坂委員

帰りたくなるような市とか、福井を好きになって戻りたいとなるためには、教育の中で市民教育も含めて郷土愛を育てるようなことが必要ではないかと思っています。特に福井の歴史や文化的な遺産について、小学校のときには少しはやるんですが、中学校、高校になるとまったくしてない現状です。もちろん語り部の会やいろいろなことで勉強し直すというシルバー世代もいらっしゃるんですが、そういった視点の教育をしていって郷土愛を育てることをやっていかないと、福井に戻りたくなる、帰りたくなるというのが出てこないのではないかと感じさせていただきました。そこら辺の視点も教育には必要ではないかと思っています。

眞弓会長

ありがとうございます。他に何かご意見はございますか。今の意見はいろいろ整理をしていただくようなかたちで、いろいろな部局が絡むと思いますので、また総合政策室の方でやっていただければと思います。

栗原委員

公募委員の栗原といいます。11番のところに「健やかで自立心をもった感性豊かな子どもを育むまちをつくる」とございます。素晴らしい文言だと思うんです。何も反論はないんですけれども、結局このところは子どもの教育論になってきて大変難しいところだと思うんです。どんな子どもを育てるのか、どんな大人になってほしいのか、これは福井だけではなく、日本全体の共通した問題のところもたくさんあると思うんです。

そういう意味で難しいといいますか、福井らしさを出したものにするというのは難しいところはあると思うんですけれども。その文言の中で、どれも大事なんですけれども、今の子どもに一番欠けているのは、私の持論なんですけど一言で言えば思いやりがないことではないかなと思うんです。周囲の人、あるいは家族、友達に対する思いやりです。広く言えば自然に生えている植物あるいは動物、そういったものに対する思いやりです。

その思いやりがないというところが問題なのであって、この文章にさらに思いやりの子どもを育むまちをつくるというのを、私としては入れたいんですけれども。文書が長いのであればどこかを削らなければならないと思うんですけれども、削るとすれば「感性豊かな」かなという気が私はしています。そこだけ感じました。

眞弓会長

ありがとうございます。大変重要なご指摘と意見だと思います。またご検討いただきたいと思います。たぶんそういう方向で含めていただけるんじゃないかと、私も思いますが。今おっしゃったような思いやりというのは非常に重要なことです。というか子どもの数が減っていて、子どもの時代にいろいろ経験をしてないので、今の時代は思いやりということがわからないんです。だから教えないといけない、そういう教育も当然必要だと思います。

斎藤委員

第4部会の斎藤です。「感性豊かな」という言葉には思いやりももちろん含まれています。そして、私は結構子どもと直接接するような、しかも学校ではない場所で子どもと接するようなことをいろいろしていますが、決して思いやりがないとは思いません。むしろ大人の方が、もう少し自分の子ども以外の子どもに目を向けてくれたらと思うような場面によく遭遇しま

して。それは子どもだけではなくて、世の中全体に求められているかなと思います。

眞弓会長

お2人がおっしゃっておられることは別に相反するものではないと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。それではこれで一応第1部から第4部までの部会長からご報告を頂きましたが、計画全体に移る前にちょっと言い忘れたことがある、これだけ言っておきたいということがあればお願ひしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは（2）計画全体に対する課題についてということで、これは事務局から説明をお願ひしたいと思います。

（2）計画全体に対する課題について

【資料】資料4・資料5

事務局（山田総合政策室長）

計画全体に関する課題についてご説明をさせていただきたいと思います。資料4、A4横長の資料が1枚後ろの方に付いているかと思います。計画全体に関する課題ということです。これは1回目の審議会あるいは専門部会、調整会議などでいろいろご議論していただいた中で、少し私どもも課題だなと思っているところでございます。

1点目、将来都市像あるいは基本目標に関するところでございますけれども、基本的には今の第六次総合計画を引き継ぐというようなことはご了解いただいているかと思っておりますが、長期的視点を持ったまちづくりを進めるためには、ある程度理念的なところは継続する必要があるだろうということがまず1点目でございます。次の課題でございますけれども、今第七次総合計画を作っているというところでは、この第七次総合計画はいったいどういうところに向かっているんだろうというところ、特徴、そういうものをわかりやすく伝える必要もあるのではないかと。こういうことが大きな課題かと思っています。

2点目、体系や構成というところでございます。全体的な構成につきまして、基本目標があって政策、施策という流れになっています。ここはいろいろ絡み合っただけでございまして、そういうものをうまく表すような工夫、そういうことをこちらとしてもしていきたいですし、そういうご意見もありました。それと体系図ですが、皆さんは第六次を見て、第七次も一瞬縦割りに見えるような体系図でございまして、これについても、横の課題というものもあることも承知してまして、横ぐしみたいなのところのつくり方、横断的な要素というものの、もう少し全体を見た体系図の中にも、盛り込む必要があるのではないかと考えています。

3点目、策定の前提となる社会情勢や社会的要請というところでございます。これは1回目に素案をお見せしたときにいろいろな課題をフラットに8個ぐらい載せていますが、5年の福井市の課題というのをもう少しメリハリをつけて出すということが必要だと思っていますので、この辺はこちらでも整理をして、例えば人口減少というものを上に置くのかなど、課題の強弱を付けていきたいなと思いますし、あと福井市の状況というのを客観的に把握できるような資料もそのところに付けていきたいと思っています。

最後4点目、今中心にご議論いただいている政策、施策のところでございます。ある程度議論の中で、やはり文言だけなので福井市の政策、施策とわかりやすくするために、具体的な福

井市の文言を入れていく、固有名詞などを入れていく工夫をしていますが、さらにできるところはもう少しやっていく必要があるのではないかと。

今、シートでそれぞれの部会の施策のこちら側に箇条書きで少し、その施策は何を意味しているかと、前の素案とは変えて出しています。箇条書きにするとその施策がより何を言っているのかというのがよくわかると思いますので、そういうかたちがいいのではないかなと思っています。それを今度実際の事業、実施計画に落とすときに、その施策の箇条書きに書いてある部分について実施に移していくというかたちを、行政側が実施計画を作るときにもそこを見ながらまたやっていきたいと思っていますので、そういうつくりもしていきたいと思っています。

総合計画自体がこの文言の政策、施策という部分と、実施計画で成り立っていますので、最終的にはそういう総合計画といったときに実際どういう事業を5年間するのか、どういう目標でやっていくのかというのを盛り込んで、総合計画にするという手も今考えています。

そのあたりは実施計画を来年に市の方で作業するんですけども、その辺もまた審議会でご意見を伺っていききたいと思っています。そういうふうに政策、施策を具体的に実施計画に移す、そういうところの工夫などもちょうど課題として出ていましたので、こちらの方としても考えていきたいと思っています。

計画全体に関する作り方、まとめ方にあたっての課題ということで、今事務局の方で考えていることをご紹介します。以上でございます。よろしくお願いします。

眞弓会長

ありがとうございます。ただいまについて何かご意見、ご質問はございますでしょうか。

堀川委員

私どもの第1部会は、農山漁村地域とまちなかをつなげるというテーマが1つあります。それから第3部会は、意欲ある農林漁業者がこれをやりたいというような思いがあった場合に、それを支援して農水の振興を図りますというような文言も入っています。その2つの観点から申し上げたいんですけども、実際に農水の予算自体は福井市独自のものがほとんどなく、国から下りてくる予算に頼っている状況であります。

ですから福井市独自の予算がないと、フットワークのいい支援ができないし、なおかつその内容について福井市としては支援したいんだけど、国の縛りがあって使えないといったようなことが往々にしてあります。ですからそれにしっかりとした予算を付けていただいて、第七次につなげていただくということを、この文言の中にも入れていただきたいと思いますし、福井市もその旨よろしくお願ひしたいと思っています。

事務局（山田総合政策室長）

予算を入れる、入れないという話を総合計画にどう書くかは別にしまして、できるだけ農業の部分で地域資源を生かしているいろいろな場合に支援できるような、福井市独自の制度ですかね、事業、そんなものは戦略のところにも書かせてもらっているんですけどやっていきたいと。販路なんか特に市も先頭に立ってやっていくとか、そういうことはやっていく必要があるんだろうと思いますので、この総合計画の中にどう書くかというのはまたいろいろご議論いただきたいと思っています。

眞弓会長

ありがとうございます。最初に野坂委員の方からもご意見がありましたけど、このものとは別に実施するにあたってはやはりどうしても限られた予算、限られたマンパワーの中である程度選択をしなければならない部分があるということも含めて、いろいろとご検討いただければと思います。

それともう1つ、私が思うのは、今回ご審議いただいている政策、施策あるいは具体的な取り組みの中に、どうしてもやらなきゃいけないことだけれども、お金も掛かるし効果が出るまでに時間が長くなるというようなもの以外に、簡単にやれるよねというのも実はあるんじゃないかと思うんです。例えば観光客を取り込むときに、福井へ行ってすごく気持ちよかったと思ってもらえるかどうか。

これはほんの1例ですけど、えち鉄に乗りますと、子どもたちも含めて、4人掛けのところに1人で足をがばっと開いて座っているんですね。今の子どもは大きいので、昔の4人掛けのボックス席は狭いわけですけど。私も時々注意することもあるんですけど、ああいうもの1つでも、観光客が福井から勝山に行くのに乗ったり、あるいは三国に行くときに乗るときに、嫌だなこの電車、と思うと思うんです。そういうことというのはお金も掛けずに、あ、すごく福井って気持ちのいいまちだねと思ってもらえるようなことというのは、もっとできることがあるので、ぜひそういうところからお金を掛けずに、人を掛けずにやれるようなことはやっていただきたいなと思いました。

他に何かよろしいでしょうか。

下畑委員

大きい手間になるんですけど。前もいろいろ話がありました。「自然・活気・誇りにみちた人が輝く かえりたくなるまち ふくい」、これは今のお話ですと10年程度の計画の継続性が必要だから、第六次と第七次は同じ将来都市像としてするという事で、前もたくさんの方からまったくコピーじゃないかと、同じことをコピーしてどうするのという話がありました。私もそう思っている1人です。まして今、福井が平成31年の中核市移行を目指して取り組んでいく大きな転換点を迎える中で、まったく第六次と同じ都市像でいくのかというのを非常に疑問に思っています。

それと、やはり第七次総合計画としての特徴をわかりやすく表すことも必要ということで、最近市長もおっしゃっていますけれども、知事もですが、幸福度ナンバーワンのまち福井、私はこれが1つこれからの大きな売り込みだと思います。それに対して市民がそう思っていない。または福井に対して誇りを感じていない。子どもたちも福井市に対してさっき郷土の愛が足りない、誇りを感じていなくて都会に行っても帰ってこない。そういう中で同じでいいのかなと。

「人が輝く」というのは非常に抽象的ですよね。変な話、「自然・活気・誇りにみちた」はいいとしても、人が輝くというのはもっと幸せで光るとか、全国に誇るとかいろいろな言い方があると思いますけれども、幸福度ナンバーワンのまち福井とか、もう少し幸福とか幸せという、福井が今これから磨き上げないといけない、客観的なデータはそうだけど市民全体がそう思わないといけない、幸せ度ナンバーワンというところを強調するような都市像ができないのかと。

他の都市から福井に来るのも大事なんですけど、今住んでいる市民の皆さん方が幸せのまち、もっともっと住みたくなるまちというところをアピールするような都市像ができないのかな

と思うんです。

事務局（山田総合政策室長）

今、事務局の方はいろいろご意見を伺いながらその最終的なそういう、「かえりたくなるまち」は生かしながら、この第七次総合計画の特徴を表すようなキャッチコピーみたいなものを作るのか、そういう将来都市像まで踏み込んで変えていくのか、いろいろご意見を伺いながらやっていきたいと思っています。

全体的なまとめをする中で、最終的にどうするかという話でもいいかもしれませんが、単純に今まで第1回目の審議会のときには将来都市像、基本目標を変えずにやります、やりたいんですと言ってはいたんですけども、そのあたりもう少しご意見を伺った上で判断をしていきたいといいますか、皆さんのご意見を伺いながらそこをどうするかということも、最終的には考えたいなと思っています。

今ここで、こうします、ああしますというのはなかなかご意見も出ないかもしれないので、お考えをいただきたいところだと思っています。よろしくお願いします。

眞弓会長

ありがとうございます。もう1人いらっしゃいましたね。

鈴木委員

鈴木と申します。資料4に「人口減少への危機感を強く打ち出す必要がある」と書いてあるんですけども、この場で議論されるのか、これは福井市民に対して発信される情報としてなのかは置いておいて、課題というのはその課題を解決するための目的や目標づくりになりますよね。そのときに人口減少をどうするかという危機感だけあおると、例えば金沢と福井で同じ人、日本人の取り合いをするような税金の使い方はすごくむだだと思うんですね。お互いに同じ人を、若い人を誘致するときに、日本という限られたところで人口が1億2,000万人から8,000万人になりますよ、その8,000万人の人口を47都道府県で取り合いをするような背景だと、これは日本としてやってはいけないことだと思います。

この人口減少というものを迎えた結果、われわれの地域や地元がどうなるとかという事例を持って危機感を持つとか、解決方法がこうであるというならすごく議論にもなるし、福井として取る選択もあるかなと思うんですけど、キャパの取り合いだけという問題提起は控えた方がいいのかなと思います。

事務局（山田総合政策室長）

人口減少は、いろいろな総合計画の専門部会でのご意見とか部会長の方にはご意見を伺っているんですけど、今人口減少の総合戦略というのを作っている中で、社会動態で横の県からあるいは他の市町からどんどん人を取ってくるというような政策は当然考えていなくて、国の方が総合戦略を作る中では、東京一極集中を是正するために大都市圏の人口を少しでも地方にというような前提があって、そこを市としてどうするか。あるいは自然動態、なかなか難しい問題ですけども、子どもさんを増やしていくというような、そういう増やしたくなるようなまちをつくっていくというようなところの政策などを、今考えているところでございます。

総合計画で人口減少と1つだけ出すのではなくて、いろいろな社会状況をフラットに一般的に言うのではなくて、もう少し福井市の実情に合った課題整理をする必要があるということで、

3 番目は書かせてもらっているところでございます。

眞弓会長

よろしいでしょうか。それでは他にないようなので質疑を終了したいと思います。

その他で事務局から何かございますでしょうか。

3. その他

事務局

それでは事務局から、スケジュールに関しまして2点ご連絡それからお願いをしたいと思えます。1点目ですが、第3回目の審議会についての日程でございます。まだ先になりますけれども、年明けの1月25日月曜日になりますけれども、この会場で開催させていただきたいと思えます。時間等につきましては、またあらためて正式な通知でご連絡を差し上げますので、まず1月25日月曜日の日程確保をお願いしたいと思います。

それから2点目ですが、第3回目の専門部会、こちらの方はもうすでにご連絡を差し上げているかと思えますけれども、時間もたっていますので再度確認をさせていただきたいと思えます。まず第1部会は12月3日木曜日2時からとなります。会場は前回会議を行いました市役所の第2別館、商工労働部の2階になります。第2部会は12月の16日水曜日、こちらも2時から第2別館の2階でございます。第3部会は12月14日月曜日、2時から第2別館の2階でございます。第4部会長は12月1日火曜日2時からですが、会場につきましてはこのアオッサの6階601号室のA会議室になります。恐れいりますがご出席の方をよろしくお願いしたいと思います。スケジュールに関しましては以上です。よろしくお願いします。

眞弓会長

今の件で何かご質問はございますか。よろしいでしょうか。

それでは予定した議事は全部終了しましたが、最後に何かもう1つ言っておきたいということがあれば伺いたいです。

野坂委員

すみません、たびたびで大変申し訳ございません。この会議なので少しだけ、お願いといたしますか話をさせていただきたいことがありまして。先ほど会長から今の少ない予算の中でも工夫でやれることがあるんじゃないかということに関連したことです。特に観光というのは今国でも重要視されています。人口減少になると商工業者も地元だけに頼っていたのではなかなか難しいです。そうすると訪れた人にお金を落としてもらうということで、交流人口という言い方をしていますが、人に来てもらってお金を落としてもらうようなことがないと、人口減少の中で商工業が維持できるということにはならないということで、そういう面では観光というのは非常に重要な視点になっています。

その中で、福井の歴史的な資産やいろいろなものがありますが、これが教育施設になっている。例えば自然史博物館、養浩館、歴史博物館、この辺を回ろうとしても、どちらかというと観光という視点ではないということになってしまいます。県は恐竜博物館を観光営業部とい

うかたちにして、30万人ぐらいしか入ってなかったのが、今70万人を超えるようなものになりつつあります。そういう面ではそこら辺の視点をぜひ、商工労働部と教育委員会でももう少し融通性を増していただきたいと思っています。

それから一番手っ取り早いのはコンベンションというものがあります。いつときに何百人という方が福井を訪れるという面では、そこで宿泊していただいてお金を落とすというのは非常に大切な、宿泊業者を含めて大きなことになるんですが、福井市は残念ながら今年になって金沢に負けています。というのは大きなコンベンションを誘致する施設がないんです。特に2,000人規模になると全然運営ができないということなんです。

せっかくフェニックスプラザを造って、市の体育館も整備をしました。体育館は体育施設で1年前に予約しないとだめだということになると、コンベンションで全国規模なんかはもっと前から日程が決まっているのが現状です。そうすると、要は両方うまく使えるような運営をしていくということで、2,000人規模のコンベンションの誘致ができるということですが、ここら辺も縦割りの中でうまくいってないです。こういうことをぜひ運営面で考えていただきたいというのが正直な気持ちでございます。

総合計画の中で、そういった視点でもう少し福井を訪れる人を増やす、または利便性を高めるということを、ぜひ、他の部署も挙げて協力していただけるようお願いを申し上げたいと思いますので、よろしくお願いします。何回も発言して失礼でございますが、よろしくお願い申し上げます。

眞弓会長

ありがとうございます。おっしゃるとおり大変重要なことだと思います。市の方でよろしくお願いしたいと思います。

すみません、私もしつこいんですけど、今おっしゃったように観光は非常に重要です。外から人を集めてくる、そのときに福井へ行って気持ちよかったと言ってもらうときに、あんまり何もないけどでもそういったすごく気持ちよかったということで1つ気になっているのが、さっき言ったえち鉄の乗客マナー、県民のマナーが極めて悪いです。本当にもう腹が立つぐらい乗っている人たちのマナーが悪いです。特に子どもたちのです。

それは私たちも注意しますが、やはり何となく、場合によると本当につらい、怖いときもあります。そういうのを見て、警察官OBの方がボランティアで乗ってくれるとかいろいろなかたちがないのかなと思ったりもしています。そういう方が注意してくれるだけで、それを1カ月続けらればずいぶん変わるんじゃないかと思ったりもしています。

もう1つは片町です。片町に夜行くとやぐざまがいの人が客引きしているという状況が、ずっと私がこちらへ来てから改善されていないのには、県都として恥ずかしいんじゃないかと思っています。あれだと家内を連れてちょっと夜食事に行き飲みにも行こうかなと思えないですね。ぜひその辺も含めて、いっぱいお金を掛けずにやれることはたくさんあると思うので、今の野坂委員のお話と同じように少し工夫していただけるとありがたいと思います。すみません、しょうもないことばかり申しまして。

よろしいでしょうか。それでは本日の議事はこれで終了させていただきます。事務局から最後に何かございますか。よろしいですか。

4. 閉会

事務局

それでは眞弓会長、どうも長時間にわたりまして進行をありがとうございました。また、委員の皆様方には本当に長時間ご審議賜りましてありがとうございました。お帰りの際にはお忘れ物のないようによろしくお願いしたいと思います。それでは本日はどうもありがとうございました。

（以 上）

第2回 第7次総合計画審議会 出席者名簿

50音順 敬称略

No.		委員氏名	備 考	部会	出欠
1	委員	家接 忠	公募委員	2	出
2	委員	大森 紀之	集落支援員	1	出
3	委員	桶師 幸恵	福井市連合婦人会 会長	4	出
4	委員	片川 正美	福井市農業協同組合 指導販売部長	3	出
5	委員	加藤 貞信	福井市議会	4	出
6	委員	栗原 哲朗	公募委員	1	出
7	委員	後藤 清範	福井労働局 公共職業安定所長	3	出
8	委員	斎藤 万世	認定NPO法人福井県こどもNPOセンター理事長	4	出
9	委員	櫻井 英佑	地域おこし協力隊	1	出
10	委員	佐々木 瑠奈	公募委員	4	出
11	部会長	島田 貢明	仁愛女子短期大学 教授	4	出
12	部会長	下川 勇	福井工業大学 准教授	1	出
13	委員	下畑 健二	福井市議会	2	出
14	副部会長	鈴木 干城	(公社) 福井青年会議所 専務理事	4	出
15	副部会長	平 重道	(福) 福井市社会福祉協議会 事務局次長	2	出
16	委員	高原 裕一	(特非) アントレセンター 理事長	3	出
17	委員	高島 美空	公募委員	1	出
18	副会長兼副部会長	田村 洋子	福井男女共同参画ネットワーク 代表	2	出
19	委員	豊田 楓	公募委員	2	出
20	委員	内藤 茜	公募委員	2	出
21	部会長	南保 勝	福井県立大学 教授	3	出
22	委員	西川 征男	福井市老人クラブ連合会 副会長	2	出
23	委員	野坂 鐵郎	(公財) 福井観光コンベンションビューロー 理事長	3	出
24	委員	林 美里	女性起業家交流会 ふくむすび会 会長	3	出
25	委員	堀川 秀樹	福井市議会	1	出
26	副部会長	町井 廣	福井市自治会連合会 会長	1	出
27	会長	眞弓 光文	福井大学 学長	2	出
28	委員	見谷 喜代三	福井市議会	3	欠
29	副部会長	宮崎 和彦	福井商工会議所 専務理事	3	欠
30	委員	森岡 咲子	若手起業家	4	出